

研究

朝日嶽城

宇目町の古城址に登って

會員 小野英治

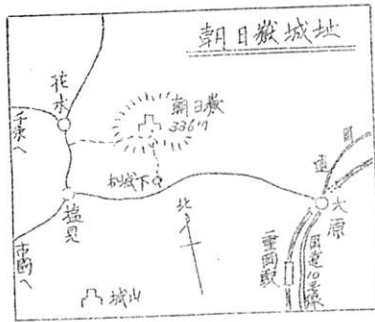
昭和四十七年十一月二十三日、宇目町の史跡を訪れた佐伯史談会員、最後に宇目町大字塩見園に、朝日嶽城の跡をたずねた。

私が朝日嶽城を訪れるのは今回が二度目であつた。前回五年程前の事であるが、金山麓木とクギドロの地を苦心して、お堀下より登つたものであつたが、今回日地元会員勲丸氏の案内にて、花水口より造林地を登つたので、比較的楽であつた。

朝日嶽は海拔三百三十六米余の山であるが、この附近はすでに海抜の高い地であるから、登るにはさほど高い山とは思えない。しかし山頂付近は大変急峻で、山上は一見して人工により削りされたことがわかる広場、腰曲輪と思えるものがあり、中世城郭の面影をとどめてゐる。

本城址と思えるあたりには松の大なるものが数本あり、龍王を祀る石塔がある。江戸時代から最近まで雨ごいに利用された山であつたと、前回訪れた折地元の人から聞いてゐる。

城址といつても、戦国時代に於ける大友氏の日向と豊後の国



境警備といふが、島津氏に對する山城であるから、大規模なものではないが、眺望は素晴らしくよい。それが山下より望めば目立たない山であるから面白い。へまり往時(天正十四年)城主柴田昭安が島津軍に内応したため、全く城寨としての機能を發揮してゐないが、大友氏にとつて皮肉であつた。

豊後國志に曰く、(原曼文)

朝日嶽城は宇目柳河原村に在り。山高く谷深く、陰驛の地なり。

大友宗麟は柴田遠江守紹安をして此に築かせ、且つ之を守らしむ。

紹安根拠あり、私から島津氏に通じ、之を啓く。天正の軍に義久は紹安をして大分の穩速城を保たしむ。

とあり、豊後國志記には、

朝日ヶ嶽、同郷川尻村に在り。天正年中大友宗麟義統下知トシテ野津院、武士柴田遠江守入道紹安之ヲ守ル。天正十四年、冬島津ニ一味シ城ヲ明け退リ。

其跡日州ノ住人上持次郎九郎親信ト云フ人之ニ居ル。同十五年、春佐伯太郎惟定之ヲ攻落シ、後廢ス。

となつてゐる。

城址にたつて私は、城將柴田紹安について考えてみた。豊後にあつて柴田姓を稱する宗族が紹安であつたが、大友氏は彼を輕視して、紹安の庶長子才能を優遇してゐる事が、紹安をして島津氏につかせた大きな理由と伝えられてゐる(大友興隆記、豊薩軍記)が、別の見方をすれば、柴田一族の二又道ともこれよう。つまり、大友島津に、柴田一族の二又道とも、柴田一族は残るといふことである。この手紙、大勢力の間にある小敵がよく使つてゐる。

家の存続を第一と考へた當時のこと、柴田紹安の裏切

リが一方的に責められるのも不合理であらう。第一彼が直接内応して朝日嶽城を落城させたものでない。ただ一家の手勢のみ引きつれて、島津軍へ加わったのである。城中にはまだ相当数の軍勢が籠って居たが、紹安の裏切りはたゞ驚くばかりであつたらしい。(一度鉄砲足輕をくり出して、薩州勢に二つうちを殺斃しているが、薩州勢はこれを無視して三重口に押し通っている。)

その後どのような経路で朝日嶽城が島津の手中に入ったか不明であるが、別に物語りもないから、恐らく城をすてて逃走したものでないかと考えられる。とすれば、守城に徹しなかつた隊の犬友勢も非難されて当然と見えるのである。それが一人紹安のみを悪人扱いしているのも不思議である。

さて、島津へ加わつた紹安であるが、薩州勢は新莽者として重要せず、妻子を星河城、紹安を天面城に別々に置いたのであつたが、星河城は佐伯惟定によつて落城し、紹安亦天面山下に於いて薩州勢に討たれている。

もし彼をして、朝日嶽城を土産にするぐらゐの悪人であつたなら、薩州勢もまた彼を重用してはたのくもわからない。悪人になりきれなかつた中途半端な考へ、行動迷いが、彼にとつて不幸、不運を重ねていつたようであるが、人間臭さが感じられて同情される面もある。

さて宇目町には、朝日嶽城の外に次のような重要薩城に關係した城があつた。

○ 血内城

小野市、西山にあり、志賀親守築城、其子道際手功であつたが、徒氣にて薩軍を引き受けて防禦したが包圍されて終に落城す。

○ 長弁丸城

小野市、西山にあり、志賀親次の支寨であつたが、薩軍の攻撃によつて破られていた。

○ 荒内城(荒討城)

小野市、上津小野にあり、別名勝賀の寨と称し、小間薩正護軍の衆を調き築城、兵を遣つて守らせらるも破られる。

○ 駒鳴城

嶽山の上にある、小野市に通ずる旧道々峠(駒鳴峠)にあり、天正十四年小間薩正城を築き、之を守る。渡辺大守共兵を指揮したが、薩軍の攻撃甚た烈しく、衆寡敵せず、正城と共戦死落城する。

○ 市園城(市園堡)

市園にあり、城主未詳。天正後、薩軍により破られる。

以上全て落城している。思へば多くの血が流され、宇目の望は荒れはてたことであつたらう。それも今昔、十五名の会員はそれそれ何かを思い、感じた秋深い朝日嶽城を下つていつた。

参考文獻 宇目郷案内(大正十三年刊)



- 1 朝日嶽城(埴見園花亦東方 三三六米)
- 2 血内城(西山血内の東方 城山 五四〇米)
- 3 荒内城(西山 懸内)
- 4 荒内城(上津小野の西 城山 六〇二米)
- 5 駒鳴城(小野市より嶽山に越す 駒鳴峠)
- 6 市園城(市園の東方 城山 三三八米)